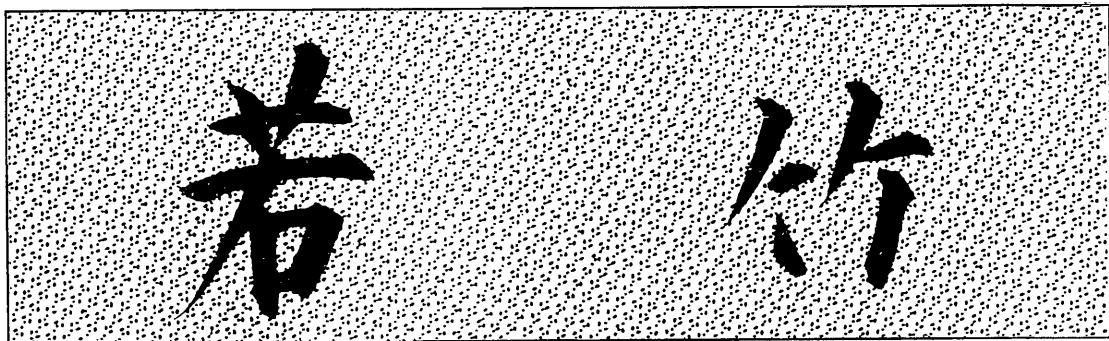


第二十八号



第六十一回神宮式年遷宮 国民総参宮を



平 成 五 年 度 役 員 名 簿

会 副 会 同 上 同 上 兼 任・事 監	長 長	武 智 正 人	石 鎧 神社 和 靈 神社	称 宜 権 称 宜 権
		吉 鍋 通 豊 飯 吉	伊豫豆彦命神社 護運玉甲申賀益八幡神社	称 宜 権 称 宜 権
		尾 田 充 真 通	和 靈 神社	称 宜 権 称 宜 権
		堀 人 上 貞	多賀神社	称 宜 権 称 宜 権
理 ○	事 (東予)	井 浅 英 宜	潮早神社	称 宜 権 称 宜 権
		菅 通 利	網敷天満神社	称 宜 権 称 宜 権
		早 雄 雅	一宮神社	称 宜 権 称 宜 権
	(中予)	田 内 弘 一	朝日八幡神社	宮司代務者
		額 一 照	愛媛県護国神社	権 称 宜 権
		和 気 省	大宮八幡神社	称 宜 権 称 宜 権
	(南予)	保 浩 丸	多賀神社	称 宜 権 称 宜 権
		保 盛 浩	和靈神社	称 宜 権 称 宜 権
		吉 保 田	和靈神社	称 宜 権 称 宜 権
相 談 役 ○		柳 原 宰	嚴島神社	宮 司
		御 田 村 駿	伊豫豆彦命神社	権 称 宜

中 央 出 向 者

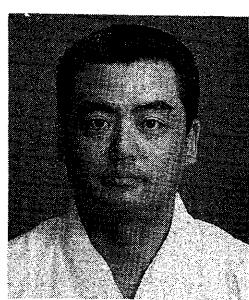
神青協四国地区理事	御 田 村 駿	伊豫豆彦命神社	権 称 宜
神青協の将来を考える会	武 智 正 一	石 鎧 神社	権 称 宜
遷宮推進委員	久 保 浩 丸	多賀神社	権 称 宜

愛媛県神道青年会
前会長

退任挨拶

「時分の花」と
「誠の花」

柳原宰



謹啓、時下益々御清栄の
御事とお慶び申し上げます。
さて、先般の定例総会に
於いて、任期満了に伴い会
長を退任致しました。在任
中一方ならぬ御協力、御援
助を賜りました県神社庁、
県内宮司様方、先輩諸兄、
会員の皆様方に対しまして、
この場をお借り致しまして、
厚く御礼を申し上げます。

御陰をもちまして、二期四年に亘つて何とかその責任を果たしました事を有り難く思つております。今後は、武智会長のもと会員一丸となつて、諸活動に、自己研鑽に励んで頂きたいと思ひます。

さて、室町時代に能楽を大成させた世阿弥元清（ぜあみ・もときよ）は、「初心忘るべからず」で有名な著書、「風姿花伝（ふうしかでん）」の中で、「時分（じぶん）の花（一時的な花）」と「誠の花（誠の花）」について述べております。能の世界では、三十二・三歳頃迄が芸が確立する頃であり、この頃はその出来映えに観客も眼を見張る様である。我々神職も、奉職して十年位経つと仕事にも慣れ、大抵の事は出来る様になり、自分でも一人前に成った様な気がするが、世阿弥曰く、「是は誠の花に非ずして、時分（じぶん）の花（一時的な花）」であり、この歳

頃の花を「初心」と言うべきなのに、当人は奥義を極めた様になり、偉そうに我流を出し、名人を気取つたりする様である。

しかし、人も褒め、名人に勝る様な事があつたとしても、其は一時的な珍しき花である。と思い悟り、益型をきつちりとし、自分よりも優れ、その道を会得した人に事細かに質問したり、教えを乞うたりして、勉強の量は一層増す様でなければならぬ。」と、述べている。

丁度青年神職の頃に、「中々素晴らしい。もう一人前の神主だ。」と言われても、其は「一時の花」と言う事になろう。誰も彼の「一時の花」を誤解してすぐにはこの花が消えてしまう事をも知らないのである。

五歳からの十年間で生涯が決まる。この時期に駄目ならその後も駄目である。と恐ろしい事も述べておりますが、私自身、青年会の時代の研鑽、活動の重要性は

最後に、今後共青年会に對しまして、県内神職の皆様方の御協力、御援助を切

ねて戴きたいと思います。『初心忘るべからず』「時分の花」から、「誠の花」を咲かせるべく、精進を重ねて戴きたいと思います。

また世阿弥は、三十四・五歳からの十年間で生涯が決まる。この時期に駄目ならその後も駄目である。と恐ろしい事も述べておりますが、私自身、青年会の時代の研鑽、活動の重要性は

身に染みておりますし、又、自分の御社の事だけでなく、広い視野に立つて神社会全体の問題や運動について考えられるのは、青年時代を於いて他に無いと思います

だからこの頃を「初心」と言うのだ。と、世阿弥は指摘する。そこで自分の芸がどの程度かを慢心抜きに評価出来る様であれば、その

居ります。

道の辺に 清水流る柳陰
しばしとてこそ
立ち止まりけれ
(西行法師一新古今和歌集)



愛媛県神道青年会会長

就任挨拶

武智正人



神道青年会の皆様、県内各神職の皆様、御社頭益々御清栄の段、大慶に存じ上げます。私儀、先般の神道青年会定時総会に於きまして会長に選出され、会の重責を担当事となりました。

私の様な者が、この責務を全う出来ますかどうか甚だ不安ではあります。皆様の御理解と御協力を戴き諸先輩方が残されましたこの会を、更にも充実発展させて行ける様、懸命に努めます。

この役職は多岐多方面に亘つての活動がなされるのですが、その要職は、御田村駿一氏が気持ち良く御引受下さり、氏曰く、「プロツク役員は私が担当します。」県内は君が引受なさい。」との事。本来ならば私の様な者が受けるべきではないのですが、先輩方の御厚情に依り、この様な運びとなりました事御了承賜りたく存じます。

さて、神道青年会とは一体どの様な活動をしている

力したいと決意する所存でございます。どうぞ、御指導御鞭撻下さいます様御願い申し上げます。

又、各県に神道青年会が存在し、それらを取りまとめる『神道青年全国協議会』なるものが存在致します。其処では全国を大まかにブロックに分け、各々に、

役員が存在し、今回四国ブロックでは、その役員選出の担当が、愛媛県になつて

いました。この役職は多岐多方面に亘つての活動がなされるのですが、その要職は、御田村駿一氏が気持ち良く御引受下さり、氏曰く、「プロ

- 1, 初詣案内ポスター制作及び県内各神社へ配布
- 2, 初詣案内
- 3, 観月神楽
- 4, 観月神樂
- 5, 神道青年全国協議会中央研修会参加
- 6, 定時総会開催於札幌
- 7, 会報「若竹」発刊
- 8, 四国四県神青連絡協議会
- 9, その他

愛媛県神道青年会 平成四年度の 主なる活動状況

のか、私共執行部の再確認の意も含め、この紙面を借りまして、活動の状況を、昨年度を例にとり、皆様に御紹介させて戴きます。

又、今年は皇太子殿下御成婚、神宮御遷宮、天皇陛下当県行幸遊ばされる等、祝活動に際しても精一杯御協力させて戴きたく、定期総会にて決議致しております。

神道青年会のメンバーは誰しもが、社務奉仕、職場奉務の最優先事項を有しております。その合間を縫つての神青活動である事。其故に、幅の有る組織の有り方を念頭に置き、先輩から引き継ぎました活動を、先ずは継承して行く事を第一目標として、尚も充実発展させて行きたく存じております。重ねての皆様方に御願い申し上げます。

愛媛県神道青年会の現状
是等の活動は、現在各神

は、会員の絶対数の不足。



と い う 極 め て 厳 しい 状 況 に 置 か れ て 居 り ま す。会 費 の 収 入 に も 大 き な ダ メ ー ジ を 受 け 誠 に 苦 し い 現 状 で は あ り ま すが、先 輩 方 か ら 受 け 繼 ぎ ま し た、神 社 界 の 若 い 神 職 が 相 集 い 力 を 併 せ て 活 動 す る 会 を、益々 盛 り 上 げ 行 こ う と、執 行 部 全 員 が 心 一 つ に 誓 つ て お り ま す。

皆 様 方 諸 事 御 多 忙 と は 存 じ ま すが、何 卒 御 協 力 下 さ

い ま す 様、御 諸 申 し 上 げ

ま す。

吉 田 充 邦



ま す が、序 の 青 年 部 で は 無 く、有 程 度 自 由 の 利 く 活 動 が 出 来 る 訳 で あ り ま す。他 宗 教、或 い は 他 団 体 の 方 を 講 師 に 御 迎 え し、神 職 対 象 の 研 修 会 開 催 等 も、行 っ て お り ま す。

机 の 上 で、理 想 ば か り を 追 い 掛 け る の で は 無 く、実 践 を 伴 う 活 動 等、極 端 な 例 は 別 と し て、規 格 に 捕 ら わ れ な い 活 動 を 可 能 と 致 し ま す。

平 成 五 年 四 月 一 日 現 在、

県 内 会 員、並 び に 会 員 該 当

者 数 は 六 十 四 名 で す が、現

実 的 に は 二 十 四 名 を 切 る 程

度 の 活 動 に す ぎ ま せ ん。

一 人 神 主、或 い は 大 社 で

の 御 奉 仕、又、神 社 外 で お

勤 め の あ る 方、そ れ ぞ れ の

立 場、環 境 と 言 う も の が 有

る と 存 じ ま す が、是 非 一 度、

会 の 活 動 に 参 加 し て み て 下

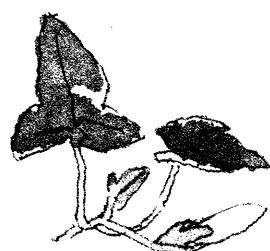
さ イ。自 己 研 磨 のみ な ら ず、

同 様 青 年 の 神 職 と し て 大 い

に 語 り 合 つ て 頂 き、必 ず や、

現 在 又、將 来 プ ラ ス に 成 る

事 と 確 信 致 し ま す。



各 会 員 の レ ベル ア ッ プ を 計 り、少 数 精 銳 も 結 构 で す が、や は り 会 員 参 加 者 が 多 い に 越 し た 事 は ご ざ い ま せ ん。役 員 が 引 っ 張 る の で 無 く、会 員 が 一 丸 と な つ て 会 を 盛 り 上 げ て 戴 き、「何 が 出 来 る」で は 無 く、「何 を する カ」と い う 事 が、青 年 として 大 切 で は な い で し ょ う か。

最 後 に、柳 原 前 会 長 様、

御 田 村 前 副 会 長 様 に 心 か ら

御 礼 を 申 し 上 げ、今 後 と も、

柳 原 様 に は 相 談 役。御 田

村 様 に は 四 国 を 代 表 す る、

神 道 青 年 全 國 協 議 會 地 区 理

事 並 び に、相 談 役 と し て、

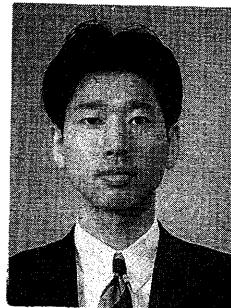
益々 の 御 指 導 を 賜 り ま す 様

御 諸 申 し 上 げ ま す。

副会長

就任挨拶

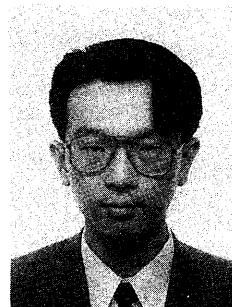
真鍋豊考



副会長

就任挨拶

飯尾眞通



この度は図らずも副会長を仰せつかりました、真鍋豊考です。

私、若輩且つ、浅学非才の身であり、しかも極めて優秀な前任者の後を引き継ぐ訳ですから、その責任の重大さを痛感しております。とはいって御指名を頂いたからには今まで築いて来られた『愛媛県神道青年会』の名に恥じぬ様、粉骨碎身、最善を尽くす所存でござりますので、何卒諸先輩、会員の皆様方の御助言、御指導の程御願い申し上げます。

神青会を始め県内神職の皆様方、益々御健勝の御事と存じ上げます。

先の定時総会に於いて、副会長並びに広報委員を仰せつかりました飯尾でございます。

皆様御承知の様にまだまだ若輩者でございまして、この様な大役をお受け出来る様な器ではございませんので、固く御辞退申しあげましたのですが、武智新会長の御命を受けました。但し御社頭での観月神樂は例年通り行いました。しかし御社頭での観月神樂は例年通り行います。御奉仕頂く各神職の皆様方を始め、関連の皆様方にはより一層の御協力の程宣しく御願い申し上げます。

我等神青会は、青年神職に依つて運営活動している会でございます。只今非常に苦しい運営状況に置かれています。何方様も御多忙とは存じますが、出来る限りにて居ります。

先般神職の皆様の中には未だ、充分な御理解をして頂いておらない方もおられるかとは存じますが、是れを良い機会としてより一層の御理解を賜りましたならば幸いに存じます。

O B の方々はよく承知頂いていると思いますが、例年観月神樂を始め、色々と活動をしております。本年は当事者及び、奉仕の方々の諸事情の都合がありまして、南海放送での観月神樂は当分の間お休みとなりました。但し御社頭での観月神樂は例年通り行います。御奉仕頂く各神職の皆様方を始め、関連の皆様方にはより一層の御協力の程宣しく御願い申し上げます。



の神青会は出席会員の絶対数が、非常に少のうござります。何方様も御多忙とは存じますが、出来うる限り御出席、及び、御協力賜ります様改めて、御願い申します。

最後に、私は全くの若輩者でございますが故、多々御迷惑をお懸けする事が有るかと存じますが、お気付けて頂いたならば幸いに存じますから、御指導下さいます。

さいましたらば幸いに存じます。

平成四年度

神道青年会全国協議会

中央研修会に参加して

『好きやねん神さん』

……響け言靈のオーケストラ！の講演より……

飯 尾 眞 通

今年三月の始め、神戸はホテルオークラにて、動物行動学者として著名な英国のライアル・ワトソン氏、ほか七名の講師を迎えた。

好きやねん神さん！

と題して、同時通訳をも駆使しての基調講演が行われました。大の相模ファンでもあり、日本通の氏の、日の丸の下での講演は非常に神秘的で、不思議な感動を覚えました。

その後、三つの分科会に別れて、それぞれのテーマでの場を持ちました。一つの分科会では夫々二

人の講師を招き、大変貴重な討論を行う事が出来、メイン会場へ移つてからも、厳しい意見なども出され、角度の違つた感覚を覚える事が出来ました。幽玄な筑紫舞の空氣に包まれている内に時間の過ぎ行く事も忘れ、神世の昔に遊んでいる様でした。あくる日は、前日の分科会でのまとめとして幾つかの質問事項が出され更に成る討論が持たれました。そしてワトソン氏の「人は神に対する絆を見つける時、神という特別で超越的な存在の中に自分を再発見する」と言う言葉を挙げて、田中優子氏の「山といふ神。樹木という神。水という神が存在してこそ、神社と神道が存在出来る」という事。園田稔氏の「祭りはイベントではない」「神

職は生計を立てる職業では無い」と言う事。鈴鹿千代乃氏の「神社に仕える神主は心の海を持ち、速佐須良比古の強力な祓へと鎮魂の呪力をして欲しい」との言葉。そしてワトソン氏の「人は神に対する絆を見つける時、神という特別で超越的な存在の中に自分を再発見する」と言う言葉を挙げて、田中優子氏の「山といふ神。樹木という神。水という神が存在してこそ、神社と神道が存在出来る」という事。園田稔氏の「祭りはイベントではない」「神

やつぱり
好きやねん
神さん！

(当県参加者)

柳原
御田村
和 飯 真 吉 久 武
氣 尾 鍋 田 保 智 駿
省 真 豊 充 浩 正 駿
一 通 考 興 丸 人



講演するライアル・ワトソン氏=神戸市で開かれた神道青年会全国協議会中央研修会

神道青年全国協議会

第四十五回定例総会報告

飯 尾 真 通

去る四月二十二日（木）神社本庁二階大講堂に於いて行われた神青協（しんせいきょう）の総会にて決まりました事を報告致します。

今回の定例総会に於いて、神道青年全国協議会（神青協）会長が新しく代わられました。前吉川会長は退任せられ、元副会長で、太宰府天満宮・宮司、高辻信良氏が、会長に就任されましたので、御報告申し上げますと共に、当県の元副会長の御田村氏がこの度神青協の四国地区理事に就任致しました事を併せて御報告申し上げます。

全ての議題も終了し、会場を移しての懇親会に出席させて戴きました。新会長を始め、OBの方々、そし

て我々会員共に皆表情が和らぎました。時の過ぎるのが大変速く名残も尽きぬ儘に本序を後にしました。

執行部員の指名を受けて初めての総会だったもので、戸惑いの連続でした。が、無事大役を果たさせて戴く事が出来ました。

本部の執行部が新しくなり、当県の執行部も新しくなりまして、現在の厳しい状況の中を乗り切つて行こうと努力致しますので何卒宜しく御願い申し上げます。

（当県参加者）
御田村駿
武智正人
飯尾眞通

第一回

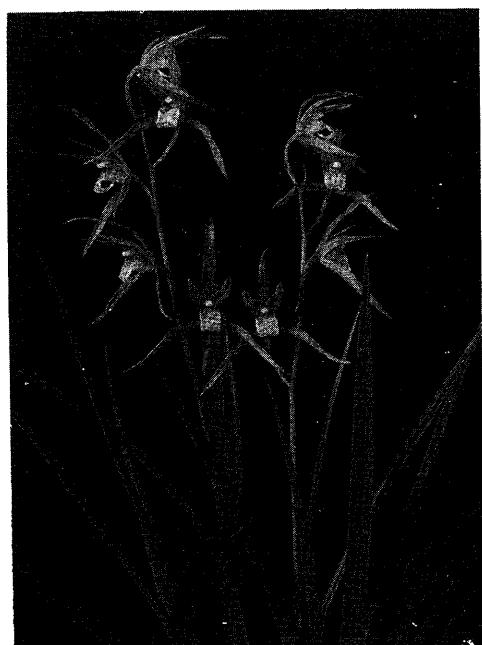
四国地区神青連絡会

飯 尾 真 通

平成五年五月十五日（木）午後五時より、国際ホテル松山・二階会議室にて四国

議題は、四国全体の神青連絡会が取り行われました。

地区の神青連絡会が取り行われました。七月三・四日に行われた神青・氏青合同研修会。その他諸々の打ち合わせを行いました。今後共神青会員又、OB の皆様も是等の会に多数参加下さいます。



平成六年年度 観月神楽開催神社の 御依頼

ただ今、明年的観月神樂を開催させて戴く神社の御受け入れを御願いしております。

この催しは、氏子崇敬者の皆様の雅楽への御理解を戴き、各神社の発展、ひいては神社神道の隆昌を目指し行っております。ぜひとも御協力下さいますよう、御願いを申し上げます。

開催する為の、段取りや交通費などをお考えの方もおいでると存じますので、以下、簡単に御説明させて戴きます。

「尚神楽演奏の皆様、巫女の皆様は御奉仕下さつております。謝礼、交通費などは一切不要です。」

神道青年会より、

○神樂奉納者の方の夕食（弁当）は、神青会にて負担させて戴きます。

○場所を提供下さる神社へは、玉串料として五万円を御奉納させて戴きます。

- 演奏者との連絡、練習日、当日の段取りなどは、神青会にてさせて戴きます。

- 場所を提供下さる神社では、参拝者へのご案内（人集め）
- 演者、巫女さんの更衣室
- 舞台の設営
- 拝殿等にて行う場合は、本殿に白幕を掛けて戴きます。外で行う場合は、足場等を組んだ、低い舞台の設置、雨天時はテントが必要です。

- 修了後の反省会の場所。更衣室と兼用でも結構ですが、但し、車で参りますので飲食物は不要です。
- 使用する雅楽器の都合上、お茶と電源が必要です。○蛍光灯等の照明器具。

南海放送
サンパーク
にて行われる
観月神楽は
**当面、
お休み**

となりました。



第二十一回 定時総会報告

但し、

御社頭での

観月神楽は行います。

本年は

平成五年度定時総会が、四月十七日（土）午後五時より、にぎたつ会館に於いて開催され、本年度の活動計画案、会計予算・決算、任期満了に伴う議案等について審議されました。

会計報告並びに、寄付・助成者他の報告、及び新役員の報告は別のページで行つております通りでござります。

本年より、執行部・演奏者他の諸般の事情に依りまして、

日時

九月四日（土）

午後七時開演

関係者の方々どうぞ宜しく御願い致します。

宇和島市　宇和津彦

神社で取り行います。

平成五年度予算

歳入の部

項目		本年度予算		前年度予算		比較増減		付記
1	会費	270	000	270	000		0	年度会費 新年互礼会費
2	助成金	200	000	200	000		0	神社庁助成金
3	寄付金	1,400	000	1,300	000	100	000	県内神社神職 その他援助金
4	雑収入	28	576	36	450	7	874	会報広告料 預金利子
5	繰越金	601	424	593	550	7	874	
合計		2,500	000	2,400	000	100	000	

歳出の部

項目		本年度予算		前年度予算		比較増減		付記
1	会議費	500	000	400	000	100	000	総会 新年互礼会 その他
2	研修教化	400	000	400	000		0	四国地区(研修会・禊)観月神樂
3	事業費	700	000	700	000		0	初詣案内
4	広報費	150	000	150	000		0	若竹 28号・29号
5	事務費	110	000	90	000	20	000	切手 葉書 振替手数料 挨拶状
6	備品費	10	000	10	000		0	
7	旅費	270	000	270	000		0	中央総会 夏期セミナー その他
8	慶弔費	40	000	40	000		0	御祝金 その他
9	分担費	200	000	200	000		0	神青協分担金、四国地区分担金、北方領土
10	雑支出	50	000	20	000	30	000	菓子 会長退任贈呈品
11	予備費	70	000	120	000	△50	000	
合計		2,500	000	2,400	000	100	000	

歳入合計 2,500,000 円

歳出合計 2,500,000 円

愛媛県神道青年会

会長 武智正人

編集後記

梅雨に入り鬱陶しい日が続いておりますが、皆様は如何お過ごしでしょうか。

是の若竹が出る頃には、遅咲の風蘭の花もそろそろ終わる頃になっている事と存じます。

我が家家の風蘭も満開の物、もう終わってしまった物と様々ではありますが、甘く何とも言えない芳香を楽しませてくれ、感謝感激でございます。

今回の若竹は広報委員の移動という事があり、私自身編集に関しては全くの素人であります為、手間も掛かり過ぎ又、御読みになりづらい部分も多々有る事と思いますが、以後お気付きの点がございましたら、どしどし御申し付け下さいまます様御願い申し上げます。

会員の皆様には、こぞつて研修会等の参加を御願い致しますと共に、事己研鑽

に今後一層の御努力御尽力賜ります様。そして、県内各御社頭にて奉職される神職の皆様方にも重ねて、我々神青会への御理解御協力の程どうぞ宜しく御願い申し上げます。

〔年会費〕 五千円也

〔振込〕

徳島七一三七三五八

愛媛県神道青年会

〔郵送〕

事務局

〒七九八

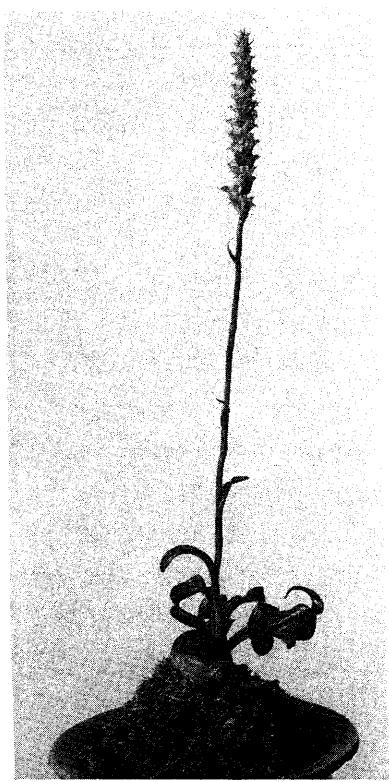
宇和島市和霊町一四五
和霊神社内

吉田 充邦 宛

〔TEL〕

○八九五一一二一〇一九七

〔FAX〕
○八九五一二三一〇二二七



時々の 花は咲けども何それぞ
母という花の 咲きでこづけむ

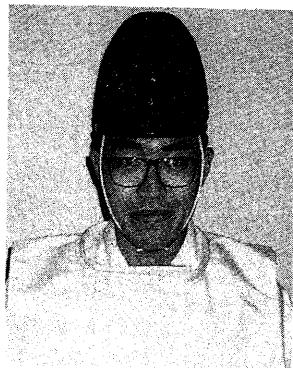
(防人歌—万葉集)



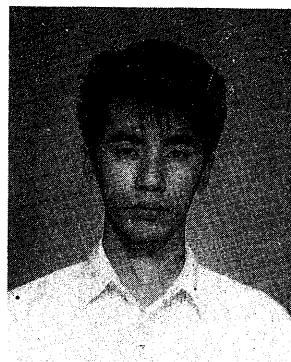
神青会メンバー 新人さん御紹介

◎佐々木 規人 ◎早田 雅雄
 さ さ き のり と そ う だ ま さ お

石鎚神社 権祢宜



一宮神社 祢宜



生年月日
昭和四十三年 七月 二十日

出身地
大分県

趣味
音楽鑑賞・ゴルフ

住所
〒799-11
愛媛県西条市西田甲七九七
石鎚神社内

電話
0897-55-4044

奉職するにあたって
誠の心を持ち、一日一日を大切にして
奉仕して行きたいと思います。

生年月日
昭和三十九年 十月 三十一日

出身地
高知県

住所
〒792
愛媛県新居浜市一宮町-1-3-1

電話
0897-32-2054

奉職するにあたって
一宮神社に奉職して一年になりますが、
これからも当社に於いての祭祀・神明
奉仕に取組、又神道青年会に出来うる
限り、協力・参加をさせて戴きたいと
思います。

南方熊楠

皆様方も大変良く御存知の南方熊楠（みなかた・くまぬ）を少し御紹介致します。

植物学・民俗学者であり自然保護活動家でもある熊楠は、明治政府が提唱した『神社合祀政策』に柳田国男等の積極的な後押しを受けて猛反対をしました。民俗古伝を護るだけでなく、自然の生態系の保護にも熱心で今日の自然保護活動の先駆者としても高く評価されています。それと同時に、天下の奇人としても有名でした。

神童・熊楠

幼い頃より自学自習で字や絵を学び、友人宅の事典『和漢三才図会』全百五卷

お

時

間

拝

借

を五年かけて全部書き写しましたそうです。

次に植物学大事典『本草綱目』五二巻二一冊を、そして、興味のある本を暗記して写本の山を作ってしまいました。世間の人は「歩く百科辞典」と評します。変な特技があります。食べた物を何時でも吐き出せるのです。喧嘩の時には口を吐きつけるので、相手はびっくりして逃げ出します。

「吾は反芻動物にして、口から出した物を再度食う時の『旨さよ』と、気持ちの悪い自慢をしています。ウツ・・・・・！」

洋行から結婚

一高を中退後、十五年間ヨーロッパ・アメリカで勉

強研究を続けます。粘菌類の研究などに没頭し、ネーチュアを始め多くの学会誌に論文を発表して旋風を巻き起こしました。が、経済的に行き詰まり、帰国します。

これ以後は和歌山県田辺町に住み、在野の学者に終始します。

研究と酒に明け暮れる毎日は、誰の目にも不健康です。熊楠四十歳の時、二十八歳の神官の娘と見合いします。

「形だけでも見合いした

ら」「嫁などいらん。研究の妨げとなる。」

ところがところが、嫌々お見合いをした熊楠だが、娘を一目見るなり惚れてしましました。

「結婚する。誰が止めようと結婚する！」

この後熊楠は婚約の記念に何を贈ろうか必死に考えます。今で言う婚約指環で

考えた末、本を一杯詰めた四斗樽二本を届けました。本が貴重な時代ですから、現在に換算すれば、トランク一杯の本ぐらいになるでしょう。

神官の父親にも長々とした手紙を送ります。常識のない、いや、学者馬鹿の熊楠の手紙は日本語ばかりではなく、英語、独語、仏語果てはラテン語迄混じっています。

真面目な父親は幾種類もの辞書と首つ引きで読み始めましたが、ついに三日目に激しい頭痛を起こして寝込んでしまいます。

これ以降、妻は夫の研究を理解し助け、夫唱婦隨の幸せな生活を送りました。

この様な熊楠は神社界に於いても傑物として多大な評価を受け得るに到りました。

しょう。

青少年担当者研修会

平成五年六月十六日(水)～十八日(金)

宇和島市 和靈神社 出仕 和田正成

六月十六日午後二時、福島県東白川郡塙町片貝殿畠にある小野田自然塾に到着した。神社本庁研修所主催のこの集いは、「青少年教化活動の指導者育成」という趣旨のもと、自然環境の中に行われるとの事である。

六月とは思えない爽やかな晴天に迎えられ、第二回目となるこの研修会に初参加させて戴いた。緑の中に浮き上がる様に立つ白いドームの道場にて受付を済ませ、早々に開校式となつた。受講者三十五名を六班に分け、各々のテントに荷物を運び、早速実技の燻製作りとなつた。牛の大腿部をナイフで解体し適当な大きさの肉片を作り、各自で削った一メートル位の串に刺し、棚を組み上げ火を起し、

七・八時間煙に晒す。この時気付いたのだが、小野田先生の指導される実技は、全て野戦での生活に基づいて行われる事だつた。もし今敵が攻めてきたら、もし住民に発見されそうになつたら、といった事を想定された方法であつた。従つて設営、撤収には手間を懸けず目的を如何に合理的に短時間で達成するかがポイントとなつていた。

夕食後、神宮司庁営林部長の木村先生の講義、加美農業高校教諭・佐々木寿先生の講義、そして小野田先生の星の話と続き、午後十時、第一日目が終了した。六月十七日。午前六時に起床。流石に東北の、まして山奥の朝は寒さが違つた。朝食を済ませ、午前の実

花、藍を染料として使つたこの実技は楽しみ乍ら行う事が出来た。午後からは山菜採取コース、森林探索コース、源流探索コースに分かれ実技を行つた。私は山菜採取コースを選び、山の懐深く入山した。私達のコースには小野田先生が付き添い指導して戴いた。七十代という御高齢にもかかわらず我々と共に山を歩き、ランボーナイフを嬉々として振るう様は、失礼乍ら、その瞳の輝きと相まって少年の様に思われた。

その日の夕食は、昨日作つた燻製とヤマメの塩焼き飯盒炊爨の御飯だった。夕食後、小野田先生の講議、レポート作成を行い、その後焚き火を囲んでの懇談会となつた。様々な地方の諸先輩方との懇談は、とても楽しく重厚で夢のあるひとときだつた。六月十八日、朝食後撤収作業を行い、最後に「これから」の青少年育成について

閉講式となつた。長い様で短かつたテント暮らしもこれにて終了と相成つた。日数に比べて実技が多く、駆け足の様な研修では有つたが、私個人としては充分樂しませたし、触発されるものが有つた。後は、如何にこの経験を神社にフィードバックさせるかが今後のテーマとなつた。

最後に、神社の信仰形態は自然崇拜を基として木々に神を感じ、川に、そして海に神性を見出し、世の常象とするならば、神職も自然に親しみ、自然環境の保全を考え、それを実践してならざる畏きものを奉る対象とする。自然を守る事も神道の大道だと思います。日本人の感性を育んだ是の自然を守る事は日本を守る事。ひいては、神道を護る事に繋がると思いります。そして何よりも大切なのは机上論ではなく行動、実践にある。そういう事を勉強させて戴いた。そんな研修会でした。

金伍千圓也	伊豫豆比古命神社 長曾我部 延昭
三 島 神 社	越 智 重 安
大 宮 八 橋 宮	和 気 須賀雄
サンパーク 神樂援助	
河 崎 南 海 放 送	
金壹萬圓也	
(株) 梅 木 匡 人	
新年互礼会 援助	
金式萬圓也	
伊豫豆比古命神社 長曾我部 延昭	
日招八幡大神社 玉井正素	
金壹萬圓也	
八幡神社 三島清家貞宏	
金伍千圓也	
愛媛県神社庁	

ここに改めて厚く御礼申
し上げます。

有り難うございました。

皇太子殿下御成婚

奉祝愛媛県民大会報告

平成五年六月十二日(土)

午後一時半より、松山市
民会館大ホールにて、皇太

子殿下御成婚を祝して記念

式典が行われました。

武智新会長の司会進行に
依つて厳粛な雰囲気の中で
参加された或る人に依れ
取り行されました。

ば、「大変良かつたです。
特に、君が代を演奏してい
る時の心に滲み入る楽の音
が何とも言えず心地好いも
のでした。」とのことでした。

記念式典が終わってから
市民会館より、大街道・銀
天街を経由し、市駅前迄行
われた奉祝パレードでは、
晴天に恵まれ御輿も出て二
層脤やかなものとなり、参
加なさった方々は皆溢れん
ばかりの笑みを浮かべてお
られました。

是の次は天皇皇后両陛下
の行幸ですが、今回を良
き経験とし、より厳かなも

のとなりますことを御祈り
致しております。

飯 尾 真 通



三 島 神 社 清 光

金壱萬圓也

高 家	惠 依 彌 二 名 神 社	伊 予 稲 石 野 荷 丸 内 神 金 信 磨 五	桑 原 八 帰 美 神 金 信 司	阿 沼 郡 高 大 市 神 誠 四 郎	雄 郡 大 宮 居 重 宮 喜 訂 詮	忽 那 島 土 神 定 喜 計	八 柱 島 渡 武 智 明 神 田 政 神 典 良	湊 三 島 大 明 神 田 政 神 典 良	三 島 手 石 玉 井 神 丸 支 次 明	井 桑 原 八 帰 美 神 金 信 司	還 熊 八 帰 美 神 金 信 司	序 小 田 支 部
-----	---------------	---------------------------	-------------------	---------------------	---------------------	-----------------	---------------------------	-----------------------	-----------------------	---------------------	-------------------	-----------

都 子 野 政 子

八 輪 神 久

暢 廣

波 賀 高 市 良 史

玉 生 八 帰 大 神 社

金 刀 比 羅 神 申 勘 藏

大 元 八 帰 武 智 圭 邑

威 三 島 下 幸 伸

別 府 賴 雄

德 威 三 島 山 下 幸 伸

金 参 萬 圓 也

金 七 萬 圓 也

金 式 千 圓 也

序 大 洲 支 部	和 靈 三 輪 田 神 元 正 亮	南 八 予 田 野 神 正 武	八 若 宮 三 好 萬 四 郎	金 四 千 圓 也 伊 予 稲 星 野 荷 野 神 宣 住	德 川 玉 島 武 神 井 貞 臣	天 一 稲 島 武 神 井 貞 臣	三 島 高 市 俊 二	天 一 稲 島 武 神 井 貞 臣	三 島 別 府 賴 雄	德 威 三 島 山 下 幸 伸	金 刀 比 羅 神 申 勘 藏	大 元 八 帰 武 智 圭 邑
-----------	-------------------	-----------------	-----------------	-------------------------------	-------------------	-------------------	-------------	-------------------	-------------	-----------------	-----------------	-----------------

金 式 萬 圓 也

金 四 千 圓 也	白 天 客 八 新 天	金 伍 千 圓 也	三 島 長 曾 我 郡 支 部	金 壱 萬 伍 千 圓 也	三 島 渡 常 講 井 和 海 山 浜	三 島 常 講 井 和 海 山 浜	三 島 常 講 井 和 海 山 浜	三 島 常 講 井 和 海 山 浜	三 島 常 講 井 和 海 山 浜	三 島 常 講 井 和 海 山 浜	三 島 常 講 井 和 海 山 浜	三 島 常 講 井 和 海 山 浜
絹 翁 神 本 神 田 部 神 中 神 石 神	髭 宮 錬 阿 沖 大	滿 鎌 神 阿 沖 大	島 一 宮 神 家 神	宇 和 津 清 家 神	八 帰 喜 多 郡 支 部	八 帰 喜 多 郡 支 部	八 帰 喜 多 郡 支 部	八 帰 喜 多 郡 支 部	八 帰 喜 多 郡 支 部	八 帰 喜 多 郡 支 部	八 帰 喜 多 郡 支 部	八 帰 喜 多 郡 支 部
稚 正 重 譽 敦 貞 宏	神 行 滿 富 則	正 重 譽 敦 貞 宏	佐 康 人	和 津 長 曾 我 郡 支 部	和 津 長 曾 我 郡 支 部	和 津 長 曾 我 郡 支 部	和 津 長 曾 我 郡 支 部	和 津 長 曾 我 郡 支 部	和 津 長 曾 我 郡 支 部	和 津 長 曾 我 郡 支 部	和 津 長 曾 我 郡 支 部	和 津 長 曾 我 郡 支 部

丸 之 内 和 靈 神 社 三 濱 勝 史

金 參 萬 圓 也

觀 月 神 樂 援 助

愛 媛 県 神 社 序	高 德 香 愛 媛 県 神 道 青 年 神 道 青 年 職 會 會 席	金 壱 萬 圓 也 三 島 佐 島 神 社 豊	金 參 萬 圓 也 県 女 子 神 職 會 素	神 道 行 法 援 助 県 女 子 神 職 會 素	日 招 八 帰 杉 生 岩 島 矢 岛 神 社 序	生 岩 島 矢 岛 神 社 序	嚴 岛 矢 岛 神 社 序	金 伍 千 圓 也 西 村 純 子	葛 城 光 彦	伊 曾 乃 神 社	金 參 萬 圓 也	

平成四年度寄付助成者芳名

県神社庁様を始めとする
県内の支部・神社・神職の方々に、当会の活動を御理解・御支援頂き、多くの御厚志、贊助金を御寄せ頂きました。
助成金

(敬称略)

金壱萬円也	盛	加	伊	金	金	金	愛	愛	金	金	金
西	八	茂	曾	六	六	六	媛	媛	六	六	六
条	幡	桑	乃	萬	萬	萬	県	県	拾	拾	拾
支	池	城	神	円	円	円	神	神	萬	萬	萬
部	橋	光	支	也	也	也	社	社	也	也	也
	義	彦	部								
	忠										

白	村	今	井	熊	嘉	護	保	白	綾	明	大	玉	湊	瀧	三
玉	山	宮	田	野	母	運	内	山	綾	日	西	生	西	嶋	
浅	祐	佐	藤	石	飯	玉	八	延	川	八	及	八	近	近	
神	神	神	原	邊	神	甲	八	森	川	八	平	幡	神	神	
海	田	神	藤	神	川	賀	幡	岡	神	幡	田	幡	藤	藤	
宜	社	三	伊	岳	神	益	神	神	崎	神	茂	神	和	和	
英	社	雄	都	始	社	正	直	正	神	弘	光	社	稔	儀	泰
都	都	都	都	捷	社	子	臣	子	神	徹	成	社	貞	社	規

三	新	八	高	姬	弓	當	橘	八	三	潮	金	須	荒	網	姫
島	都	都	浜	子	削	田	橘	幡	三	早	伍	木	木	敷	坂
都	都	都	坂	鷦	額	八	新	幡	潮	浅	千	八	八	天	
				井	宮	幡	宮	安	嶋	也	円	幡	幡	滿	
				鷗	神	神	神	大	大	本	大	松	松	神	
				村	原	原	田	堀	堀	原	大	菅	菅	天	
				神	神	神	神	神	神	神	神	藤	藤	滿	
				弘	淨	重	三	修	修	神	守	松	松	神	
				二	社	則	郎	巧	巧	社	社	清	清	光	
												博	宣	正	

嚴	金	金	中	金	金	岩	三	土	高	南	立	天
島	式	式	中	式	式	城	皇	居	鴨	山	石	満
柳	萬	萬	西	萬	萬	八	條	居	鴨	都	都	神
原	圓	圓	予	圓	圓	幡	皇	居	鴨	神	築	築
磐	也	也	予	也	也	神	居	居	鴨	築	芳	芳
根			支			神	居	居	鴨	神	社	社
			部			本	居	居	鴨	築	社	社
						敬	居	居	鴨	芳	社	社
						睦	居	居	鴨	憲	社	社
									鴨			

平成四年度決算書

歳入の部

項目	本年度予算	本年度決算	比較増減	付記
1 会費	270,000	360,000	90,000	年度会費 新年互礼会費 潔会費
2 助成金	200,000	400,000	200,000	平成3年度4年度分
3 寄付金	1,300,000	1,689,000	389,000	県内神社神職 その他援助金
4 雑収入	36,450	8,180	△ 28,270	預金利子
5 繰越金	593,550	593,550	0	
合計	2,400,000	3,050,730	650,730	

歳出の部

項目	本年度予算	本年度決算	比較増減	付記
1 会議費	400,000	324,062	△ 75,938	総会 新年互礼会 その他会議
2 研修教化	400,000	653,565	253,565	潔会費 観月神楽 四国地区研修等
3 事業費	700,000	695,464	△ 4,536	初詣案内(ポスター・テレビスポット)
4 広報費	150,000	85,630	△ 64,370	会報27号
5 事務費	90,000	62,273	△ 27,727	切手 葉書 封筒 その他事務用品
6 備品費	10,000	0	△ 10,000	
7 旅費	270,000	140,000	△ 130,000	中央総会 その他
8 慶弔費	40,000	24,456	△ 15,544	御祝金 その他
9 分担費	200,000	236,000	36,000	神青協分担金 四国地区分担金 北方領土
10 雑支出	20,000	227,856	207,856	手数料 葉子 特別基金へ22000円
11 予備費	120,000	0	△ 120,000	
合計	2,400,000	2,449,306	49,306	

歳入合計 3,050,730 円

歳出合計 2,449,306 円

601,424 円 (平成5年度一般会計へ繰込)

監査報告 上記各項目監査の結果、相違ないことを認めます。

平成5年 3月17日

監事 都子野 清 彦印
監事 堀 司印